



「街路灯だけでは確保できない明るさを、各家庭の門灯をすべて点灯して確保しています。午後10時ぐらいまでは、つけておくようにしています。少しでも夜道が明るいと、安心できますね。近くにある公園の清掃活動もこの地域の住民が取り組んでいて、地域の結び付きがしっかりしています」。

「門灯一斉点灯運動」
(並木自治会の皆さん)

暗闇無くして
不安を解消！

あいさつで
まちを明るく！



「公園の清掃活動をしながら、小中学生に声を掛けて登校を見守っています。公園の清掃は、小学生も月1回参加しています。また、公園の中には花壇があって、毎朝中学生が水をあげてから登校しています。みんなが使う公園をみんなできれいにすることで、地域のつながりが密になっていると感じます」。

「声かけ運動・花いっぱい運動」
(西小仙波町1丁目自治会の皆さん)



こんな活動をしています

地域の目



「自転車に黄色いステッカーを付けています。近くの交番が無くなったこともあり、防犯に対する意識が強くなりました。買い物に出かけて同じステッカーをはった自転車を見かけると、自然にあいさつもできて、コミュニケーションにも役立っていると思います。自転車に乗っていない、ごみ出しや犬の散歩のときにも周囲の様子が気になるようになりました」。

「ながらパトロール運動」
(岸町1丁目～3丁目の各自治会の皆さん)

違反広告物撤去で
まちをきれいに！



「6月から、町内の電柱などにはられた違反広告物の撤去に取り組んでいます。15人を2グループに分けて、2週間に1回町内を見回っています。始めた当初は多かった広告物が、最近になってだいぶ減ってきました。町内がきれいになっているのが自慢です。仲間といっしょに話をしながらゆっくりやっているので、負担は感じません。この活動を始めてから、ふだん歩いているときでも、電柱が気になってしかたがないんですよ」。

「違反広告物簡易除去活動」
(通町自治会の皆さん)

買い物ついでに
パトロール！



防 犯の「目」が生む さまざまな「芽」

「防犯」ということばからは、「パトロールをしなければならぬ」「犯罪者を見逃さない」といった、面倒で危険を伴うイメージが少なからずあります。でも、そのような直接的な防犯活動ではなく、右ページの活動のように、「買い物しながら」とか「清掃活動のついでに」といった間接的な防犯活動でも、大きな効果があります。

こうして防犯の「目」が増えることで、さまざまな「芽」が生まれています。

軽 い運動と同じ！ 健康の「芽」

「歩く」という行為は、有酸素運動の一つ。人と話をしながら歩ける程度の速さで、一定時間続けて行うといい運動になります。足腰が丈夫になる、血行がよくなるなどの効果があります。

違反広告物の撤去を行っている通町自治会の皆さんに聞いたところ、少なくとも二十分くらいは歩くそうです。こ

の二十分というのは、体が温まりうっすらと汗をかき始める時間。買い物や通勤・通学、犬の散歩など、ふだんの生活の中で歩く機会はたくさんあります。健康を気にして、ふだんからウォーキングをしている方もいるでしょう。そのついでに、ちょっと周囲を気にしながら歩くことで、その効果は防犯と健康の一石二鳥になります。

なお、自転車に乗ることで同様の効果が得られます。



団 結は力なり！ 連帯感の「芽」

並木自治会の門灯一斉点灯運動のように、地域が一体となった取り組みや、地域の皆さんがいつしよに公園や道路の清掃活動を行うことから犯罪を起こさにくい環境が生まれます。

地域の連帯感を強くする、

いちばん簡単な方法はあいさつ。神戸市のある地域では、見知らぬどうしでも、あいさつを交わす運動を始めました。すると、空き巣などの被害が無くなったそうです。地域の連帯感が強くなると、災害にも強くなります。十年前の阪神・淡路大震災では、建物に閉じこめられた方の多くは、地域住民の手によって救出されました。いざというときに、隣近所の皆さんが、強い味方になります。

自 分のまちが好き！ 地域に愛着の「芽」

たった一枚の割れた窓ガラスを放置したことで、まちの秩序が乱れ、犯罪が起こりやすい環境になる……。『割れ窓理論』と呼ばれているものです。かつて犯罪が多発していたニューヨークでは、この理論を実践し、どんなに小さな犯罪（落書きやポイ捨て）も見逃さず、徹底して取り締まったことで、安全なまちづくりに成功しています。地域の公園にみんな花を育てる、ごみ拾いをする、違反広告物を撤去するといった

活動は、地域の環境美化につながります。まちがきれいになると、犯罪者に「ここでの犯行は無理だ」と思わせる効果が生まれるそうです。自分が住んでいる地域がきれいである安全な場所になることで、住み心地もよくなります。それは、住むことに誇りの持てるまちづくりにつながります。

大 切なのは 継続すること

安心・安全なまちは、すぐに形成されるわけではありません。継続することが大切です。途中でやめてしまうと、防犯の「目」が無くなり、そこから生まれた「芽」も、枯れてしまいます。防犯の「目」から生まれた「芽」を大切に育てていくことで、さらなる防犯の輪が広がり、犯罪に囲まれている暮らしとは無縁になっていきます。

今後、市では次のような活動を行っていく予定です。

- ①防犯のまちづくり重点地域（クレアモール周辺）における活動の促進・支援
- ②防犯推進体制の整備・促進

強化地域の指定

③公用車に青色回転灯装備車両の導入

④「安心安全情報ネットワーク」の構築

「要注意」に掲載している五つの犯罪の、ことし一月から五月までの市内の犯罪認知件数は、千四百三十五件。昨年の同時期より、三百九十一件減っています。地域の「目」を増やすという、市民の皆さんの防犯に対する意識が高まった成果です。犯罪をさらに減らしていくために、これからもご協力をお願いします。もし、犯罪にあった、犯行を見かけた、気になることがあるといったときには、左記にご一報ください。

- 「犯罪にあった」「事件や不審者を見かけた」すぐに110番通報！（どの電話からでも「110」だけでつながります）
- 警察に関する各種相談（緊急性のない相談等）けいさつ総合相談センター・TEL048-822-9110（プッシュホンの場合、#9110でもつながります）▶川越警察署・TEL224-0110・FAX224-6558